

2025. 5. 7

報道関係者 各位

< 配信枚数2枚 >

**立命館大学大阪いばらきキャンパスで大阪府絶滅危惧Ⅰ類のキツネなどを発見
～自動撮影カメラによる調査で判明～**

立命館大学政策科学部(大阪府茨木市)の桜井良准教授と OIC 総合研究機構の高畑優研究員の調査により、大阪いばらきキャンパス(OIC)にキツネなどの複数の食肉動物が生息していることが明らかになりました。OIC は 2015 年度に開設され、JR 茨木駅から徒歩 7 分、四方を線路や高速道路、住宅地などに囲まれた都市型キャンパスです。キャンパスに出没する野生鳥獣の種数を明らかにすることを目的に、OIC 内緑化エリアである通称「里山エリア」に、複数台の自動撮影カメラ(カメラトラップ)を設置し、調査が行われました。2025 年の 1 月から、2 カ月間の調査の結果、合計 2,379 枚の動画が撮影され、キツネのほか、テンやタヌキなどが確認されました。

キツネは大阪府では減少傾向にあり、野生動物の種の絶滅の危険度を評価するレッドリストでは絶滅危惧Ⅰ類に指定されている希少な野生動物です。近くにまとまった規模の緑地がほとんど存在しない OIC において、キツネが生息していることは、府内の野生動物管理者や研究者、そして地域の住民にも大きな驚きとともに受け止められました。生息地が開発され、大阪府内の大半の都市部でキツネやテンは絶滅したと考えられていたため、本研究は学術的に新しい知見を提供するものとなりました。また都市型キャンパスであるにもかかわらず、多くの野生動物が生息していることは、2015 年に更地からできあがった OIC において、地域住民や教職員、学生が一緒になって取り組む「コミュニティ共創プロジェクト」の成果といえます。(2 か月の間でキツネが撮影されたのは数回程度で、個体数が非常に少ないことを踏まえると、一般市民が住宅地などでキツネを見かけることはほとんどないと思われます。仮にキツネを目撃しても、近づかないで、静かに離れることがよいとされています。)



立命館大学大阪いばらきキャンパスで撮影された野生のキツネ(左)およびテン(右)

< 桜井良准教授のコメント >

私は 2015 年の OIC 開設とともに、立命館大学に着任し、茨木市内に住んでいます。私にとって里山エリアは、緑の中で気持ちが安らぐ憩いの場であり、私の子どもも秘密基地をつくったり、地域住民にとっても人気の場所になっています。多くの学生や教職員が集う OIC でキツネやテンを発見し、驚きとともに、嬉しく思いました。野生動物と共存する環境にやさしいキャンパス・まちづくりにつながるような研究に今後とも取り組んでまいります。

＜高畑優 研究員のコメント＞

OIC は都市部にありながら、里山エリアは自然を感じられる素敵なキャンパスです。日中は木々のざわめきやイソヒヨドリのおえずりが聞こえ、自然と共にある心地よさを感じさせてくれます。そんな OIC で深夜にはキツネやテンといった野生動物たちが訪れていることがわかりました。彼らがなぜ、この場に生息しているのか今後調査を進めていきますが、人と野生動物がともに豊かに暮らせるまちづくりに向けたヒントが隠されているかもしれません。引き続き調査をすることで、彼らの都市生活を明らかにしていきます。

配布先： 大阪科学・大学記者クラブ、文部科学記者会

以上

●本件に関するお問い合わせ先

(研究内容について)

立命館大学 政策科学部 准教授 桜井良

TEL.072-665-2080 Email. ryosak@fc.ritsumei.ac.jp

(報道について)

立命館大学広報課 担当:岡本

TEL.075-813-8300 Email. r-koho@st.ritsumei.ac.jp